世界保健デー 2023



大阪国際がんセンター がん対策センター レジデント

大阪大学在学時にタンザ ニア留学にて国際保健医療と出 会い、帰国後は勉強会を毎月主催。野戦病院での初期研 修を経て、現在は健康格差是正を夢に、疫学・公衆衛生 を勉強中

世界保健デーとは

世界保健デーとは、世界保健機関 (WHO) が設立された 1948 年 4 月 7 日を記念して設けられました。この日に は、毎年 WHO が国際保健医療に関す るテーマを選び、それに沿って、世界各 国でイベントが開かれています。今年の 世界保健デーのテーマは「Health for All」でした。2023年はWHOが設立 されて75周年の節目の年にあたります。 WHO のホームページでは、75年の間 の公衆衛生の歴史を振り返りながら、今 後も皆で力を合わせて健康に関する困難 を乗り越えていこう、とテーマについて 紹介されています。日本 WHO 協会では、 昨年に続いて世界保健デーイベントを開 催しました。

動画コンテスト開催

今回のイベントに先駆けて、昨年に引 き続き、動画コンテストを開催しました。

図1 動画閲覧ページ

募集する動画は3分以内のものとし、 テーマは、昨年の WHO 世界保健デー のテーマである「Our Planet, Our Health」(わたしたちの地球、わたした ちの健康) としました。「Our Planet, Our Health」というテーマはとても難 解であるにも拘わらず、個人または団体 の方々から、あたたかさや熱い想いにあ ふれた作品をたくさんご応募いただきま した。選考委員会による厳正な選考の結 果、優秀賞として以下の6作品を選出 しました。

1)『世界中のみんなとカルタで遊んで みた。』

大橋由生さんの作品です。「ぷらねた りいへるす」の文字に合わせて、いろい

ろな業種の方々が、かるたでメッセージ を発している印象的な作品でした。

2) 『ペットマチョボトル~バカッコイ イ SDGS ~ 』

ちゃーはん 近侑一朗さんの作品です。 ごみの分別やフードロスなどといった SDGs の問題をバカッコヨク解決してい て爽快な作品でした。

3) 『ひとつしかない地球だから』

プロテラス映像チーム土本彩乃さん・ 五十嵐亜衣さんの作品です。やさしい色 合いで、地球環境の大切さを考えさせら れます。

4) 『考える展』

京都精華大学創作実習 2022 の方々 の作品です。絵の中に取り込まれてしま



図2 動画コンテスト受賞者のみなさんと

った女性が、海や森の汚染について考える機会を得る、ショートドラマのような作品です。

5) ポピロイ星移住計画

岡山大学歯学部4班 近藤英知さん・ 中村水結さん・三宅ほなみさん・小田 彩果さんの作品です。宇宙人が地球の美 しさを再確認させてくれます。

6) The Cycle of life

西川陽菜さんの作品です。やわらかな タッチの美しいアニメーションで、テン ポがとてもいいです。私たち人間も地球 の一部だ、と考えさせられました。

これらの作品はすべて、日本WHO協会のホームページからご覧いただけます。ぜひ、一度見た方も、まだ見ていない方も、ぜひご視聴ください。

イベント当日

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症に対する行動指針のため、会場に参集する形式でのイベント開催ができませんでしたが、今年は、会場に講師や参加者さんをお招きして、ハイブリッド形式で行いました。日本WHO協会では、世界保健デー以外にもイベントを開催していますが、参加者さんと対面でお会いするのは、約5年ぶりとなりました。2023年4月7日は平日にも拘わらず約70人の方が大阪の商工会議所へお越しいただき、また、同時中継のオンライン配信には約180人の方が参加してく



図3 たくさんの方に会場にお越しいただきました

ださりました。

イベント当日の開会挨拶では、中村安 秀理事長が、アルマアタ宣言を踏まえて、『Health For All』について解説されま した。その後、本イベントに協賛してい ただいた企業や、アドバイザリー・グル ープの方々をご紹介しました。13名の アドバイザリー・グループの方々は、国 際保健医療の分野で著名な方ばかりでし たが、みなさまからとてもあたたかいコ メントをいただき、イベントへの期待の 高まりを感じました。

その後、動画コンテストの優秀賞となった6作品を上映し、それに引き続いて 表彰式を行いました。表彰式では、実際 に大阪の会場までお越しいただいている 制作者の方には、壇上に上がってきてい ただき、一言ずつメッセージを言ってい ただきました。ここで初めて、動画を制 作された方々とお会いしたのですが、 10代・20代の方々ばかりで、皆様の 動画制作スキルならびに、地球環境・健 康への意識の高さに驚きました。

シンポジウム『Health For All』

イベントの後半では、今回のテーマ 『Health For All』を掲げて、仲佐保さ ん(シェア=国際保健協力市民の会・共 同代表理事)、新福洋子さん(広島大学 副学長(国際広報担当)、大学院医系科 学研究科教授)にご登壇いただき、シン ポジウムを行いました。WHO 世界保健 デーの 2023 年のテーマである「Health For All」(すべての人に健康を!)を掲 げ、仲佐保さん(シェア=国際保健協力 市民の会・共同代表理事)、新福洋子さ ん(広島大学副学長(国際広報担当)、 大学院医系科学研究科・教授) にご登壇 いただきました。

仲佐さんは 40 年前に設立された国際 NPO の代表であり、ご自身もカンボジ ア難民キャンプでの支援活動をふりだし に最近はコンゴ民主共和国に在住するな

ど、世界各地でプライマリー・ヘルス・ ケアを実践してきました。仲佐さんの講 演「シェア=国際保健医療市民の会が歩 んだ『プライマリー・ヘルス・ケア 40 年の道』」では、仲佐さんが 1985 年に シェアの一員としてエチオピアに緊急援 助のために訪れたときに、現地では緊急 援助よりも開発援助(プライマリー・ヘ ルス・ケア) が必要とされていることを 体感した体験談とともに、世界全体の国 際保健医療の潮流についてお話されまし た。国際保健医療は、今ではユニバーサ ル・ヘルス・カバリッジとして、母子保 健や感染症だけではなく、すべての疾患

が対象となってきています。シェアの活 動は、過去40年で、変わったこともい くつかありますが、"様々な分野での公 平なパートナーシップ"という点では変 わっておらず、その理念を大切にしてい るそうです。国内外の格差が広がってい る国もあるが、その国の中で取り残され た人たちのための事業を継続し、人々の 自立支援を継続するために今後も活動を 続けていく、とお話されました。

新福さんは、2020年にWHOなどか ら「世界の卓越した女性の看護師・助産 師リーダー100人」に選出された助産 師です。タンザニアで妊産婦の健康を促 進するアプリを開発し、医療在来知を訴 え、人々が暮らしのなかで形成する実践 的、経験的な知のあり方を探求してきま した。新福さんの講演「タンザニアの妊 産婦の健康を促進するアプリと医療在来 知」では、新福さんが妊産婦死亡率の削 減のために行っている、タンザニアでの 活動についてお話されました。妊産婦死 亡率はサブサハラ・アフリカでは、人口 10万人に対して556人と多く、そのよ うな地域では医療人材が不足している現 状です(日本は人口10万人に対して4 人)。タンザニアでは、約半数の妊婦が、 出産時に伝統的産婆が立ち会っており、 妊産婦検診の受診率も、田舎では半分以 下です。スマートフォンが普及している



図4 仲佐保さんのスライドより

ことを利用して、新福さんが開発した妊産婦用のアプリを利用して、教育コンテンツの配信や、SNSでの悩み相談対応などができるようにしているそうです。今後も引き続き、医療在来知の理解と積み上げを行っていく、と発表されました。その後、中村理事長のファシリテーターのもと、パネルディスカッションが行われました。参加者の方から、いくつか質問があがり、みなさんで Health For All について考える有意義な時間となりました。

世界の健康を大阪から祝う

さて、今回のイベントは、現地に実際 に講師や参加者の方にもお越しいただけ たというのもあり、とても熱気のある会 になりました。普段は医療とは別の分野 で活躍されている方も、この日は世界の みんなの健康を祝い、願うような1日 になったのではないかと感じます。この イベントをもっと活発なものにするべく、 今後も引き続き開催・運営をしていきた いと思います。来年2024年の世界保 健デーでも、動画コンテストを開催する 予定ですので、ぜひご興味のある方は応 募をご検討してください。また、一緒に 日本 WHO 協会や世界保健デーを盛り 上げたいという方も、ぜひ日本 WHO 協会事務局にご連絡ください。また来年、 皆様でお会いしましょう!

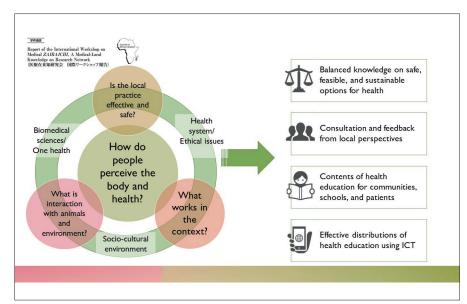


図5 新福洋子さんのスライドより



図6 パネルディスカッションの様子